



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G1816号)

平成30年8月28日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

ハタハタ・アカガレイ・大型クラゲ等に関する情報について (平成30年度底びき漁期前調査結果)

平成30年8月6～7日に但馬沖水深180～350mで、同19～21日に大山沖～隠岐北方水深180～240mで、漁業調査船「たじま」によりトロール網試験操業を実施しました。(図1、表1)。結果の概要は以下の通りです。

① ハタハタに関する情報

- ・隠岐北方水深220m、隠岐東方240m、但馬沖180m、中江190mで100kg/網以上のまとまった入網がありました。(表1、図2)特に但馬沖180mはこのエリアで過去に例のない大量入網でした。(但し8/6の情報)
- ・水深240m定点以浅での1曳網当たり入網重量は隠岐北方～大山沖の平均で59.7kg/網で、前年(59.2kg/網)並みでしたが過去10年平均(77.8kg/網)を下回りました。(図3)
- ・漁獲物は、隠岐東方・大山沖では2才魚(体長16cm前後)・3才魚(18cm前後)が多かったものの隠岐北方・但馬沖では1歳魚(14cm前後)が主体で、全体として1才>2才>3才の年齢組成となりました。(図4)
- ・大山沖・隠岐東方の漁獲物は胃内容物の量が多く、隠岐北方・但馬沖ではわずかでした。

以上のことからハタハタの秋漁(9～10月)について、**漁場は広範囲に及びますが隠岐東方～大山沖には安定した漁場が形成されるでしょう。漁獲物は1才魚が主体ながら隠岐東方～大山沖などでは2・3才魚も混ざるでしょう。漁獲量は前年並みで近年の平均を下回るでしょう。**

② アカガレイに関する情報

- ・アカガレイの入網は但馬沖～大山沖でまとまって認められました。(表1、図6)
- ・但馬沖～大山沖を平均した入網重量は24.8kg/網で前年(14.8kg/網)を上回りましたが過去10年平均(28.2kg/網)を下回りました。(図7)水深300～350mに限っても傾向は同じでした。
- ・但馬沖では体長30cm以上の大型メスは水深300～350mで入網しました。水深240、210mでは体長15～30cmの中小型個体が生き残っています。(図8)

以上のことからアカガレイの秋漁(9～10月)について、**漁場は但馬沖～大山沖を中心に形成されるでしょう。漁獲量(入網量)は水深300～350m水深帯において前年を上回るでしょう。**

③ 大型クラゲに関する情報

- ・全海域で大型クラゲの入網が認められましたが、傘形60cm未満のユウレイクラゲと見られるものがほとんどで、出現数も少なく(1～2個体/網)、操業に支障のない状況でした。(表1、図9)
- ・壱岐・対馬、山陰沿岸等で目撃、入網情報はあるものの、大量出現の可能性は低い状況です。
- ・大型クラゲ出現情報についてはJAFIC ; <http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>や水産研究・教育機構 日本海区水産研究所 ; http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/kurage/kurage_top.html等から情報収集に努めて下さい。

④ その他の情報

- ・**2019年漁期以降ズワイガニ資源の新規加入の減少が懸念されており、今漁期の水がに、セコがにの混獲死亡を回避することが大変重要**です。アカガレイ、ハタハタなどと同時に、ズワイガニが多く混獲される海域(隠岐北方水深220m、但馬沖水深350m・210m、大山沖250mなど)では「**混獲回避漁具**」や「**吊り岩**」を有効活用してズワイガニの保護に努めて下さい。

以上、操業の参考にして頂ければ幸いです。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター (担当：大谷)

TEL : 0796-36-0395 FAX : 0796-36-3684

email : nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ : <http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.htm>

平成30年度底びき漁期前調査結果 資料

1)調査の目的

底びき解禁前のハタハタ、アカガレイ、エチゼンクラゲ等の分布、体長組成等に関し、情報の収集と提供を行う。

2)調査日時

平成30年8月6～7日(但馬沖)

平成30年8月19～21日(大山沖～隠岐北方)

3)調査海域

但馬沖:水深 180～350m海域

大山沖～隠岐北方:水深 180～240m海域(図1参照)

4)使用船舶

兵庫県 漁業調査船「たじま」(199トン)

5)調査内容

①トロール試験操業

図1に示した計18点において、底びき試験操業を実施。
使用漁具:着底トロール網、袋網16節、袖先間隔約26m、間口高さ約2.7m、曳網方法:3knot、30分(約1.5マイル)曳き。

②海洋観測

定点におけるSTDによる海底までの水温、塩分観測と、網に取り付けたセンサーによる海底水温の計測を実施。

③魚探反応の収録

トロール曳網時の魚探反応を収録。

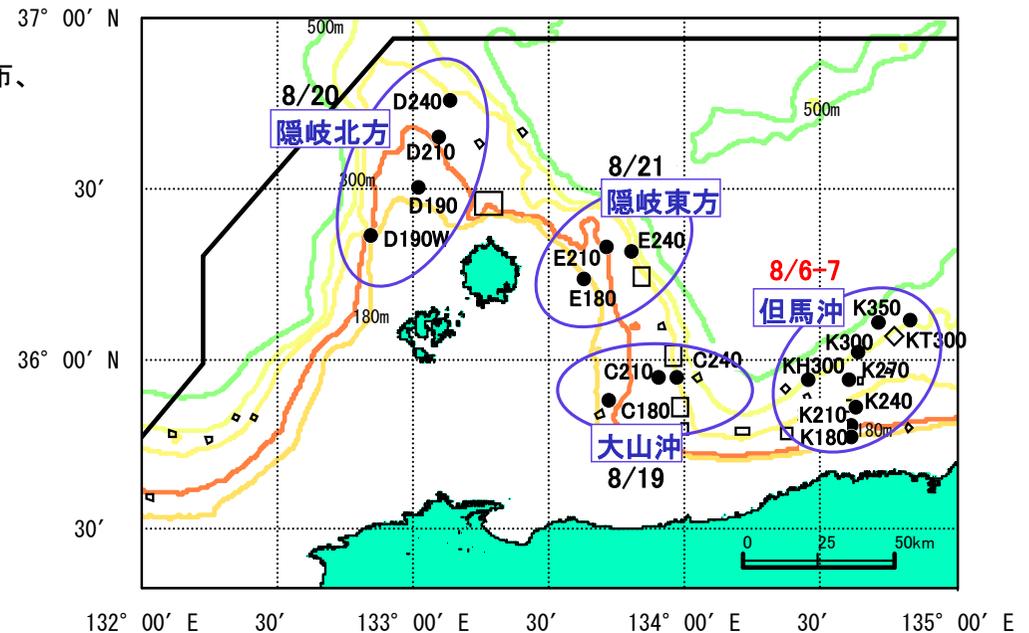


図1 調査海域図

表1 定点別魚種別入網状況(2018年)

月日	曳網開始時刻	エリア	操業点番号	平均曳網水深	海区番号	表面水温(°C)	海底平均水温(°C)	魚種別入網重量(kg)							
								ハタハタ	アカガレイ(マガレイ)	ソウハチ(イテ)	ヒレグロ(ヤマ)	バイ類	エビ類	ノゲンゲ(トキ)	大型クラゲ
8/7	7:38	但馬沖	K350	352	8086	27.6	0.9	1.9	97.9	0.0	0.0	1.6	5.8	100.3	0.0
8/6	17:15		KH300(310)	308	8191	28.0	1.8	0.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.5	1.5	0.0
8/7	5:56		KT300(310)	310	8086	27.5	1.1	0.7	42.0	0.0	0.1	2.7	2.5	44.8	0.0
"	9:29		K300(310)	306	8089	27.8	1.4	0.7	70.7	0.0	0.0	2.5	2.0	20.9	0.0
8/6	15:40		K270	271	8097	28.0	2.0	4.6	12.7	0.0	3.0	1.8	1.4	9.5	(3.0)
"	13:47		K240	235	"	28.2	3.0	8.7	17.3	0.9	0.5	10.2	0.3	0.9	0.0
"	12:03		K210	212	8098	28.1	5.5	30.0	24.2	0.9	2.2	12.0	0.4	0.0	0.0
"	10:27		K180	184	"	28.5	5.9	388.5	0.0	2.3	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8/19	12:59	大山沖	C240(250)	247	8291	26.8	1.8	23.3	73.2	6.8	1.1	9.8	0.1	4.2	0.0
"	14:43		C210(220)	219	"	27.1	2.4	33.6	11.4	2.0	1.0	5.7	0.5	0.4	0.0
"	16:43		C180(190)	193	8294	26.9	3.4	7.8	9.0	2.2	0.6	9.1	1.2	0.0	6.3
8/21	10:05	隠岐東方	E240	235	8285	26.4	3.9	220.4	6.5	0.0	5.7	17.3	0.7	0.6	3.2
"	8:25		E210	207	"	26.4	3.2	67.9	1.5	0.9	1.2	13.6	1.8	0.0	0.0
"	6:25		E180(190)	185	8288	26.2	2.7	10.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
8/20	14:21	隠岐北方	D240(220)	221	8378	27.1	3.0	311.0	14.8	0.0	2.2	7.6	1.1	1.1	5.3
"	12:27		D210(200)	201	8379	27.0	4.5	21.8	3.7	0.0	3.6	3.5	0.2	0.2	5.8
"	10:20		D190(180)	183	"	26.8	5.6	12.7	1.7	0.1	3.4	8.0	0.0	0.0	0.0
"	7:56		D190W	185	8481	26.5	1.5	102.6	0.0	1.4	3.0	16.8	0.1	0.0	0.0

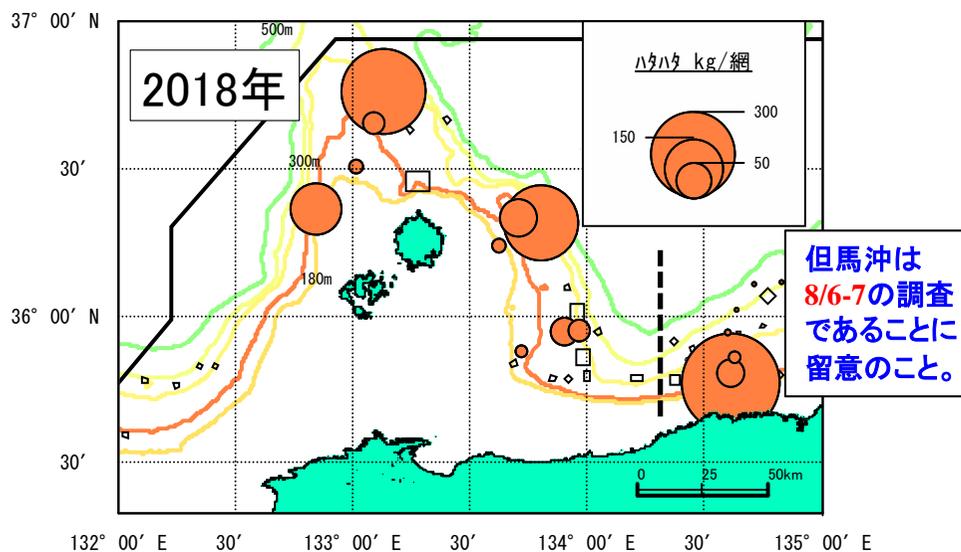


図2 ハタハタ入網重量の分布(kg/網)

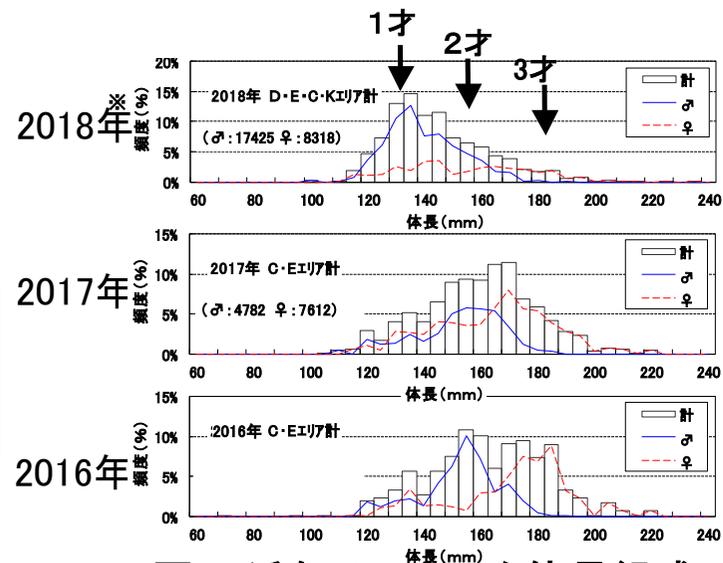


図4 近年のハタハタ体長組成 (隠岐東方～大山沖) ※2018年は隠岐北方を含む

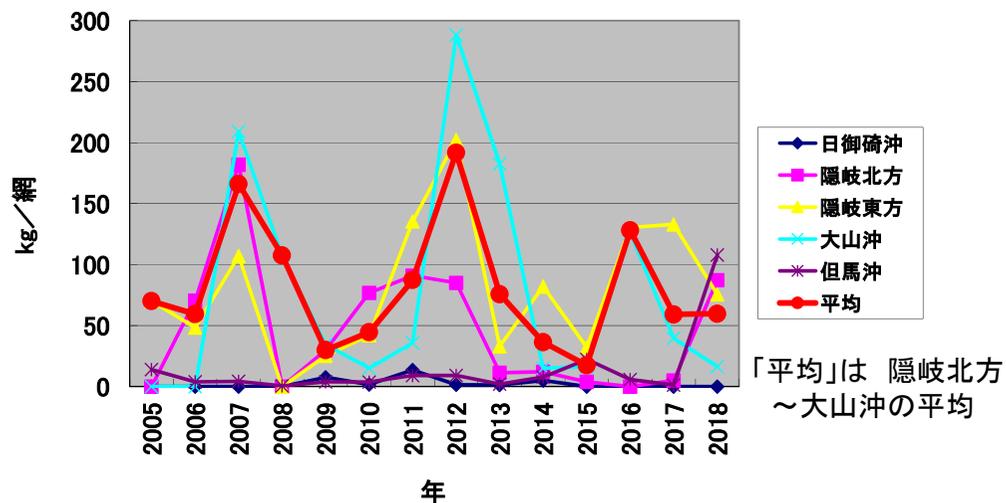


図3 エリア別 1 曳網当たりハタハタ入網重量 (曳網水深166-255m)

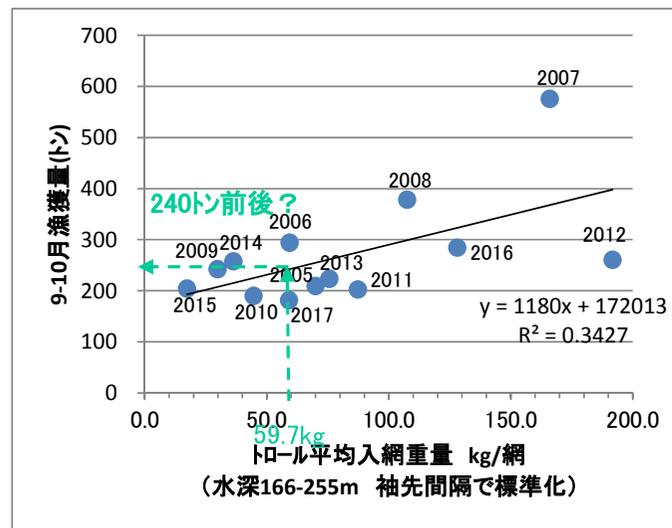


図5 調査1 曳網あたり入網重量と 9～10月のハタハタ漁獲量の関係 「平均入網重量」は隠岐北方～大山沖の平均

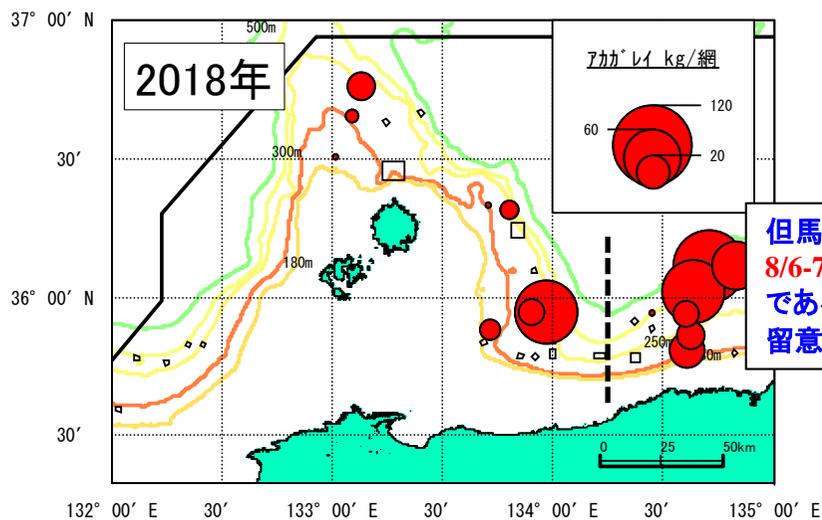


図6 アカガレイ入網重量の分布(kg/網)

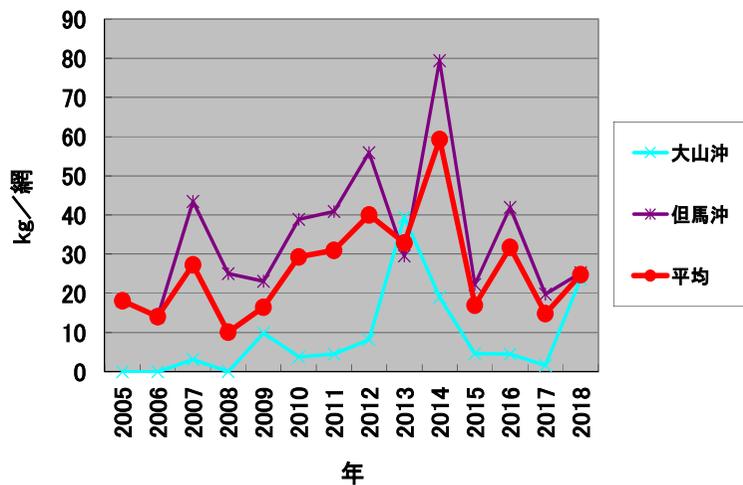


図7 エリア別 1 曳網当たりアカガレイ入網重量

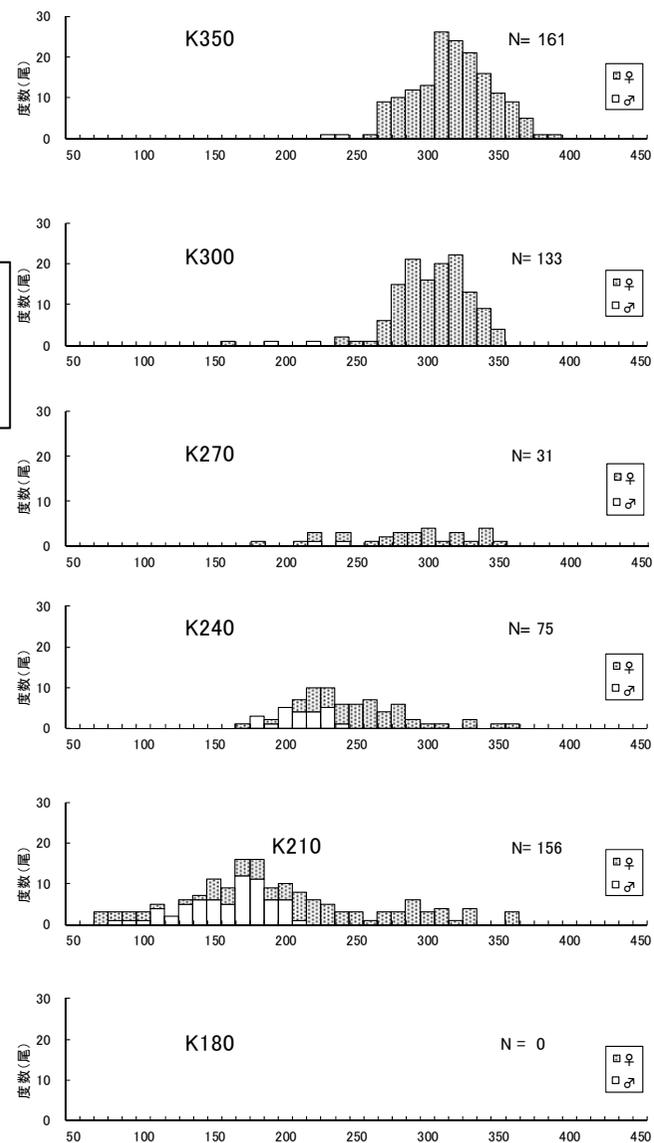


図8 定点別アカガレイ体長組成(香住沖)

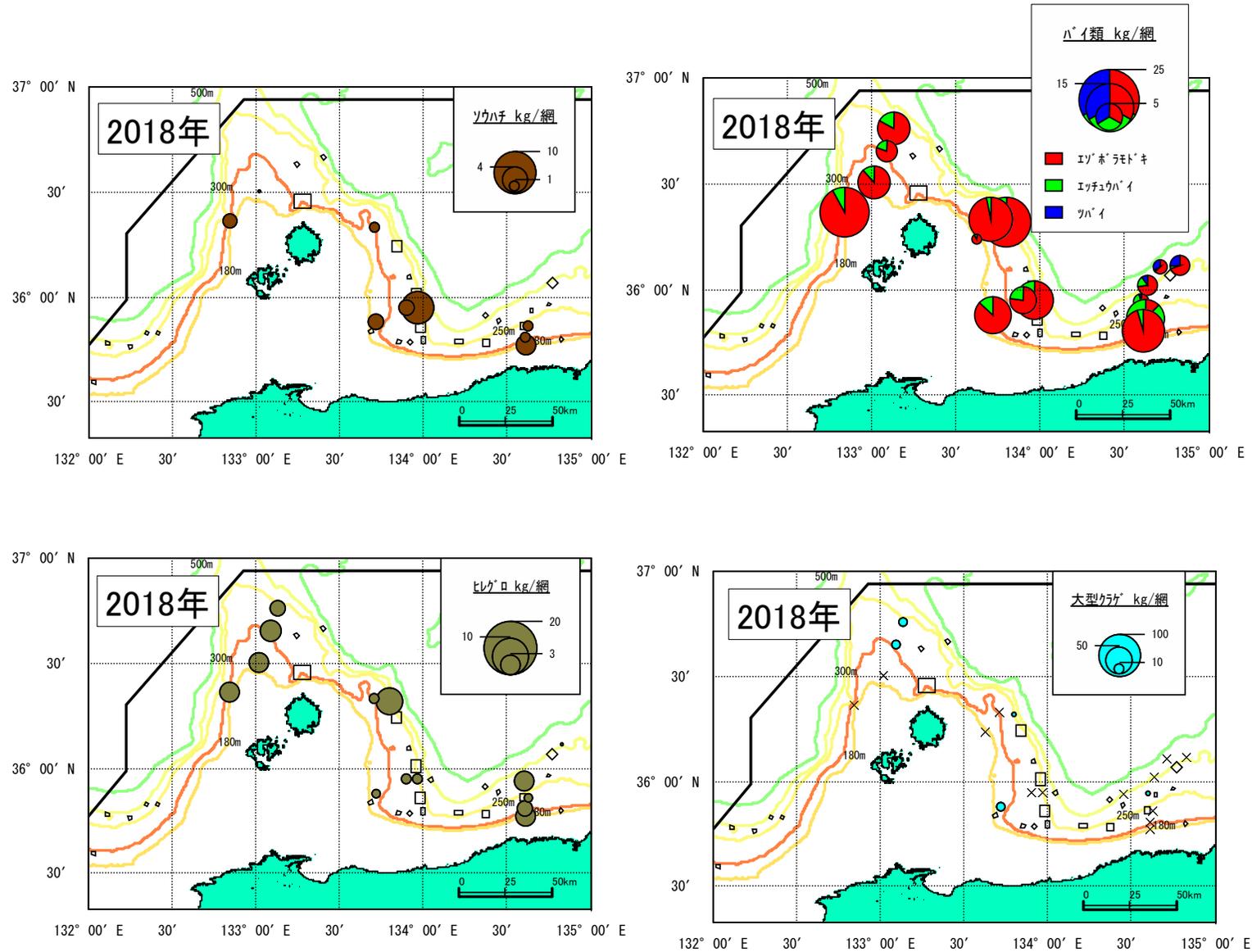


図9 その他主要魚種等の入網重量の分布(kg/網)